

## チュートリアル課題 熱がさがりません

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-06-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.20780/00033210">https://doi.org/10.20780/00033210</a>

2018年度 Segment. 7

課 題 No.2

課題名：熱がさがりません

課題作成者：膠原病リウマチ痛風センター 堤野 みち



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

シート1

Rさんは、26歳の女性です。2年前に希望の会社に入社し、仕事にも慣れ、最近一人暮らしを始めました。1か月ほど前から、朝起きると両手が握りにくい感じがあることに気がつきました。以前より家事をすることが増えたからだろうと思い、また、会社に着くころには気にならなくなっていたので様子を見ていましたが、次第に手首や手指のつけ根のところが痛むようになり、心配になってきました。症状が続くため、近所の内科クリニックを受診しました。先生に手首や手指のつけ根のところが押されると少し痛みがあり、先生には、「両方の手首が少し腫れているようですね、血液検査をしてみましょう。」と言われました。

## シート2

朝の手の握りにくさや、手首などの痛みは、先日処方してもらった鎮痛薬を服用し、少し改善しましたが、続いていました。2週間ほどして、Rさんは、近所の内科クリニックに検査結果を聞きに行きました。先生には、「もっと詳しい検査をする必要があるので、総合病院の内科を受診してください。」と言われ、近くにある総合病院への診療情報提供書ももらいました。その際に、今の手首や手指の症状が出る前に何か変わったことがなかったか先生から尋ねられ、4～5日続いた発熱（37～38℃）があったことを思い出し、熱が出る前日に久しぶりに友人と屋外を長時間散歩したことも思い出しました。そのことを先生に伝えると、「なるべく早く受診してください。」と言われました。

## シート3

Rさんは、以前から友人とハワイに旅行に行く計画を立てており、手の握りにくさや、手首などの痛みは続いていたものの、鎮痛薬で何とか我慢できたために、すぐには大学病院を受診せず、予定通り、ハワイ旅行に出かけました。ハワイでは海水浴をしたり、ショッピングをしたり楽しく過ごしました。無事に帰宅した翌日に、38℃台の発熱が出現しました。Rさんは、新たに市販の解熱薬を購入し、それを服用すると37℃台にはなるものの、夜になると38～39℃に上昇する日が、4～5日続きました。Rさんは近所の内科クリニックでもらった情報提供書を思い出して、大学病院の膠原病内科を受診することにしました。

シート4

大学病院の膠原病内科を受診し、Rさんは外来担当医の診察を受け、血液検査、尿検査、胸部X線写真、心電図、関節X線写真が行われました。担当医は、検査結果を見て、「入院して、精密検査をしましょう。」と言い、Rさんは入院することになりました。入院後も発熱は持続していました。Rさんは、入院後追加された検査もあわせて、結果を担当医から説明してもらいました。

シート5

更に、担当医からは、「病気のせいで腎臓が障害されているようです。腎臓の組織を一部採って顕微鏡でみる検査をしましょう。」と言われました。Rさんは、インターネットで検索して病気のことを勉強していたので、腎臓以外には、病気の影響を受けている臓器がないのか心配になりました。

シート6

顕微鏡で観察された腎臓の病変は、採取された他の糸球体にも認められましたが、全体の50%には及んでいませんでした。また、硬化性の病変は観察されませんでした。Rさんは、担当医から、これらの結果を聞き、副腎皮質ステロイドと免疫抑制薬を併用して治療をする方針を聞きました。Rさんは、治療はどの程度効くのか、長期的にはどのような経過になるのか、薬の副作用には、どのようなものがあるのか、とても心配になりました。担当医は、「治療の効果や、病気の経過、副作用などについて、詳しく説明します。」と言いました。



シート7

Rさんは、担当医から説明を受け、プレドニゾンとミコフェノール酸モフェチルの内服を始めました。その後、発熱、皮疹、関節症状は治まり、徐々に蛋白尿、血尿や腎機能障害は改善しました。その後、プレドニゾンは減量され、退院の日が近くなりました。Rさんは、退院後は、いつから仕事に復帰できるのか、退院後の治療はどうなるのか、治療にかかる費用はどのくらいなのか、心配なことがたくさんあります。